

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報(U) 平3-41326

⑫Int.CI.  
G 06 F 1/16  
15/02登録記号  
315 A9072-5B  
7459-5B

⑬公開 平成3年(1991)4月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑭考案の名称 携帯用パーソナルコンピュータ

⑮実 請 平1-100140

⑯出 請 平1(1989)8月28日

⑰考案者 藤原 江美子 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑱出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号

⑲代理人 兼理士 本庄 伸介

## 明細書

### 1. 考案の名称

携帯用パーソナルコンピュータ

### 2. 実用新案登録請求の範囲

ディスプレイ装置をキーボード付きの本体装置に結合部を介して連結されており、収納の際には前記ディスプレイ装置が前記結合部で折り曲げられ該ディスプレイ装置と前記本体装置の前記キーボード側の面とが近接して対面される構造の携帯用パーソナルコンピュータにおいて、

前記ディスプレイ装置の表示画面を前記本体装置に対して反転自由に支持する支点部が前記結合部に設けてあることを特徴とする携帯用パーソナルコンピュータ。

### 3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、ディスプレイ装置とキーボード、演

算器等を含む本体装置とが一体化された携帯用パソコン用コンピュータに関する。

(従来の技術)

携帯用パソコン用コンピュータでは、携帯性を高めるため、ディスプレイ装置と本体装置とがヒンジ等の結合部で結合されて一体化されている。そして、持ち運ぶときや使用しないときは、結合部を中心にしてディスプレイ装置を本体装置側に回動させ、ディスプレイ装置によって本体装置のキーボード等を覆い隠すようにし、外側からディスプレイ装置の表示画面が見えないようにしている。

(考案が解決しようとする課題)

ところで、このような携帯用パソコン用コンピュータに実行時間の長いプログラムを実行させたい場合がある。このようなときは、一般に、ディスプレイ装置の表示画面に表示されたメッセージまたはデータを見るだけであり、キーボードを使用することはない。

しかし、このようなときでも、ディスプレイ装

置を結合部を中心にして本体装置とは反対方向に回動させて表示画面が外部から見えるようにしている。従って、誤ってキーボードのキーが押下される可能性がある。さらに本体装置とディスプレイ装置とを開放状態にしてディスプレイ装置を上方に突出させているので大きなスペースが必要である。このように従来の携帯用パーソナルコンピュータには解決すべき課題があった。

本考案は、このような欠点を解決したものであり、ディスプレイ装置が本体装置のキーボードを覆った状態においても外部からディスプレイ装置の表示画面を見ることができる携帯用パーソナルコンピュータを提供することにある。

(課題を解決するための手段)

本考案の携帯用パーソナルコンピュータは、上記目的を達成するために、ディスプレイ装置をキーボード付きの本体装置に結合部を介して連結されており、収納の際には前記ディスプレイ装置が前記結合部で折り曲げられ該ディスプレイ装置と前記本体装置の前記キーボード側の面とが近接し

て対面される構造の携帯用パーソナルコンピュータにおいて、

前記ディスプレイ装置の表示画面を前記本体装置に対して反転自由に支持する支点部が前記結合部を有する。

(実施例)

次に、本考案の実施例について図面を参照して詳細に説明する。

第1図は本考案の一実施例の携帯用パーソナルコンピュータの外観斜視図である。本体装置5にはキーボード4が設けられている。一方、ディスプレイ装置1には表示画面2が設けられている。そして本体装置5の奥部には、アーム13、14の先端13a、14aがそれぞれ折り曲げ自由に保持されている。アーム13、14の先端13b、14b間には、ディスプレイ装置1のほぼ中央部が反転自由に支持されている。ディスプレイ装置1を、第2図に示すように、アーム13、14の先端13b、14bを中心にして矢印A、Bいずれかの方向に回動させて、ディスプレイ装置1の

表示画面 2 を本体装置 5 のキーボード 4 に臨む状態と、ディスプレイ装置 1 の裏面側（表示画面 2 の反対側面）がキーボード 4 に臨む状態とに変換できる。また、第 3 図に示すように、アーム 13、14 の先端 13b、14b を中心にしてディスプレイ装置 1 を回動させ、ディスプレイ装置 1 の裏面側が本体装置 5 のキーボード 4 に臨む状態にし、且つアーム 13、14 の先端 13a、14a を中心にしてディスプレイ装置 1 を折り曲げ、ディスプレイ装置 1 で本体装置 5 のキーボード 4 を覆い隠すことができる。

第 4 図は本考案の別の実施例の携帯用パソコン用コンピュータの外観斜視図である。本体装置 5 にはキーボード 4 が設けられ、ディスプレイ装置 1 には表示画面 2 が設けられている。そして、ディスプレイ装置 1 は、結合回転部 3 により本体装置 5 に対して折り曲げ自由に保持されると共に、本体装置 5 に対して回転自由に保持されている。本実施例では第 5 図に示すように、結合回転部 3 に付設された図示しないピンを支点中心にして矢

#### 4. 図面の簡単な説明

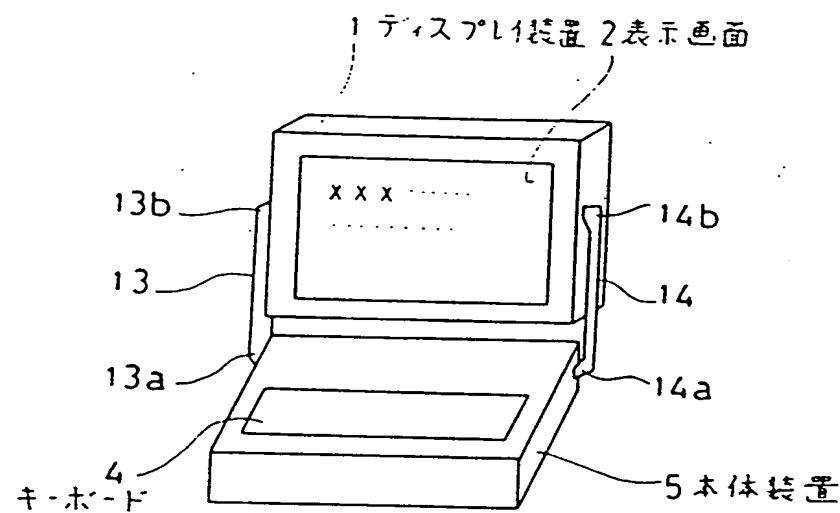
第1図は本考案の一実施例の携帯用パソコン用コンピュータの斜視図、第2図はディスプレイ装置1の裏面側面を本体装置1のキーボード4に臨むようにした状態における第1図実施例を示す斜視図、第3図は第1図の実施例においてディスプレイ装置1の裏面側面を本体装置1のキーボード4に臨むようにし、且つディスプレイ装置を本体装置5に収納した状態を示す外観斜視図、第4図は本考案の別の実施例の携帯用パソコン用コンピュータの外観斜視図、第5図は第4図の実施例においてディスプレイ装置1の裏面側面を本体装置5のキーボード4に臨むようにした状態を示す外観斜視図、第6図は第4図の実施例においてディスプレイ装置1の裏面側面を本体装置5のキーボード4に臨むようにし、且つディスプレイ装置1を本体装置5に収納した状態を示す外観斜視図である。

1…ディスプレイ装置、2…表示画面、3…結合回転部、4…キーボード、5…本体装置、13、

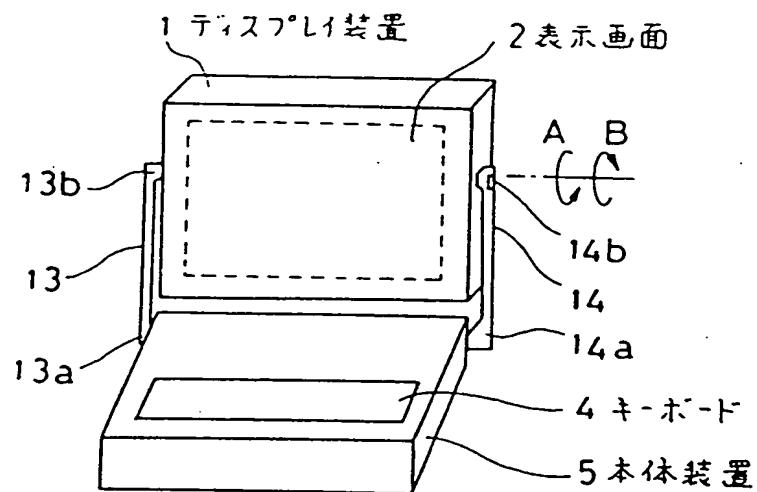
公開実用平成 3-41326

14…アーム

代理人 弁理士 本庄伸介



第 1 図

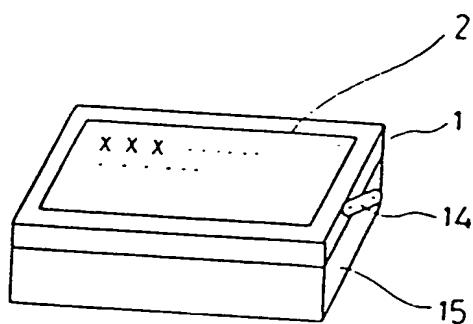


第 2 図

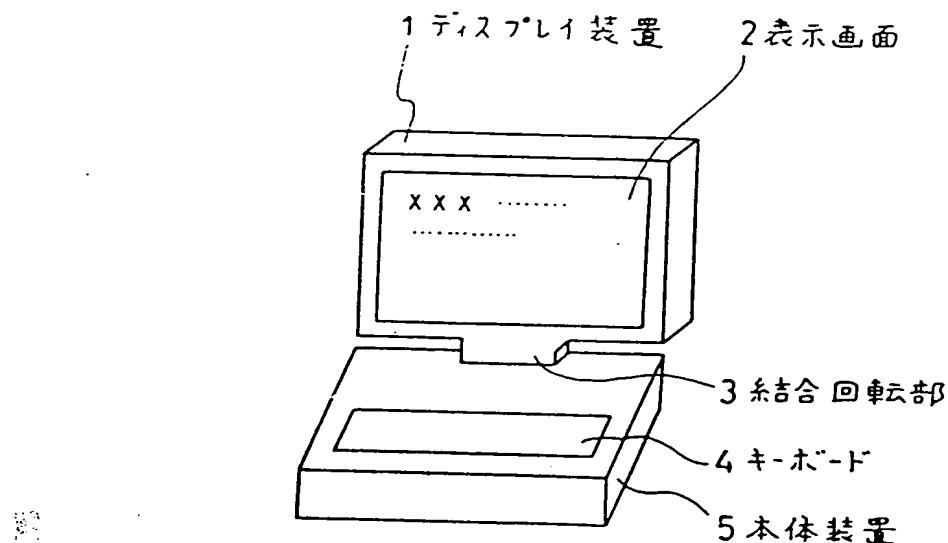
367  
実開 3 - 41326

代理人弁理士: 本庄伸介

公開実用平成 3-41326



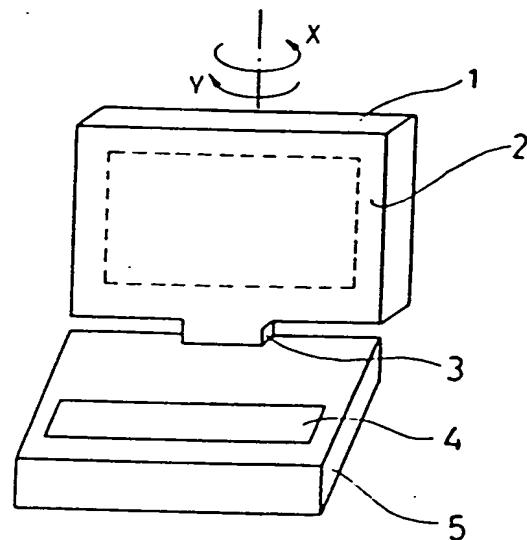
第 3 図



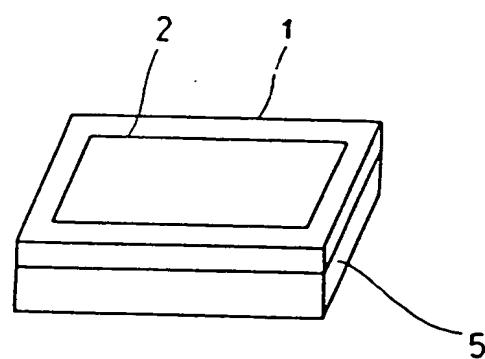
第 4 図

実開 3-41326

代理人 木庄伸介



第 5 図



第 6 図

359  
実用 3 - 41326

代理人 弁理士 本庄伸介

This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

**BLACK BORDERS**

**IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

**FADED TEXT OR DRAWING**

**BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

**SKEWED/SLANTED IMAGES**

**COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

**GRAY SCALE DOCUMENTS**

**LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

**REPERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

**OTHER: \_\_\_\_\_**

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images  
problems checked, please do not report the  
problems to the IFW Image Problem Mailbox**